

# 一族、その肥り方はまだある

## オリンピックと万国博

山田一族が現在のように、ドヤ財閥と評されてゐるに匹敵する一つの契機は、昭和三九年頃のことである。三九年頃といえば、オリンピックとそれに伴う新幹線工事により、山谷・釜ヶ崎とも人口が急激にふくれ上つた時である。

## 特集・千成火事 その五

それまでのドヤは、木造で部屋も比較的に古い型のもので厚とんとであつた。現在のようば鉄骨高層ドヤに変わったのは、その三九年の少し前からであり、高層ドヤ建設にまつさまに乗り出したのが山田一族でもあつた。逆の意味で、釜ヶ崎の街並区大きく変えてしまつたのが山田一族であるといつてもよい。

低い天井、一部屋一畳、見かけはデラック

スホテルというドヤの近代化は、何一つ内実

を伴わないばかりかむしろ違法建築化であつ

て、山田一族に代表されるドヤ資本のもうけ

拡大の柱めだけにとられたものだつた。

いわゆる「つり天井」で一階を二階分にく

ざるという方法が、まずとられたドヤ近代化

の手段であつた。その典型的な例が、煉けに

①宝ホテル、②千成ホテル、であつて、共に

三九年前後に改築された、山田一族の経営す

るドヤなのである。

この「つり天井方式」こそ最も危険、かつ

燃えやすいもので、二つの火事を報道する新

聞記事からひろえれば、「中央に火柱が立つ」

ような火のまわりの早い特徴がある。同じ頃

改築された同じく危険なドヤに山田一族の

③新橋（山田治）山治株式会社経営）がある。

## 元祖「フリ天井」

消防局、建築局などの再三の改善勧告を無視し、造詣建築を假装事業化していった大手山田一族のやり方は、当然他の経営者にも影響を与えることになった。いったん、金をかけ「フリ天井」にし、客もちやうど借入れることができるようになった時、何れも山田一族でなくとも再度金をつぎ込んで収入を減らすようなことはするまい。そういう形で「フリ天井」式ドヤは増え続けた。

時代の流れは山田一族に新しい試みさせることになる。オリンピックの景気以後、新しい意ラタイアのドヤ建築を山田一族は極めてこつこつと、むしろ「フリ天井」方式のドヤはそのままでして、である。それは、最初から建築基準ギリギリの規格で最初から高層建築として申請して建てるやり方であった。最初に建つけられたのが、銀座通りの中央付近にある㊦「ホテル新光」である。

## 「新光」は、山田一族のうちの伊太郎を頭目とする直系血縁八人へ伊太郎リタカ、博美リ寿子、又二郎リ勢津子、晴文リ嘉代子、IIは夫婦がおのおののしるすつ所有するといつ、いわば一族おけての建設であった。

また「新光」建設以後の邦和四三三三頃から山田一族をリーターとする高層近代ドヤの建築ラッシュがおこつていった。時はちやうど万圓時の前のことである。

四四四五月には㊧ホテルキング（和子）が同年一二月には㊨ホテル末町（米子）、四五

年三月には㊩ローレル（秀博、博文、美子、他五名）が、ローレルと同時期に㊪坂本ホテル（博美、寿子）が、というように次々と建てられていったのである。三九年の景気に続いて初の下に二区目のとじやうはいちたわけである。

しかし、このような形をドヤの大経営者のしよが、こり、山田一族に對する他のドヤ主たちが自ら眼をみ出すやうになつた。

その間にドヤ組合（大阪府簡易宿所環境衛生同業組合）は結成されていたが、山田一族は組合を無視し、入ろうともせず、そこに成り

上かり者としてみられる要素を自らつくってしまつたのである。四六年頃よりややく、ドヤ組合に加入し巨額、いままでのしこりと反差は歴々あり、組合内部に反山田派の勢力が張いついていふ。

またこのころに、三三三から現在に至るまで、  
㊫東洋の四七四一二月建築、高橋个有限会社  
東洋銀座（のうら）に約千三百円といふ高層ドヤへと様相を変えた新しいものも生み出されている。

※この頃と早東ニヤージ（特正・特正）があつて、その次の三ニヤージまでつづく。

## 一族数あそび

山田一族のもっている不動産について、おもしろい計算を試みよう。これらの数字はわかっているだけで56軒の建物のうち、調査の結果、はっきりとした登記簿上の数字として示せる33軒についてのものだから、あとは適当に各自で増量してもらいたい。

★建物の延面積は全部でどのくらい？

—2万3818坪（17217.8坪）。森之木屋小中学校は約6000坪あるから、それのざっと4倍くらいことになる。

★「千成」の建坪だと、何階建のドヤになるか？

—「千成」の1階面積は241.92坪あるから、わり算すると、98階と半分のドヤセルになる。しかも「フリ天井」の1階を2階にわけた庭りだと197階建のドヤだ。

★一体、何人泊まれる？

—「千成」は事實上6階で328室、この割合だと、何と1万769人、という数字になるのだ。（オドロキオドロキ）

★一族が建物を担保にして銀行から借りた金は、どれだけ働いたらかせけるか？

—全部で11億59百万円、貸付さう千円の仕事を1日も休まずこの働かしても、635年働かなくても毎日、1円も使わずに！！

千田一彦シヤカ名鑑  
 千田一彦シヤカ名鑑



# 山田一族の遺産

「さうして戦後の山田の転婆をみていくと、おおよそ四回、そのタイアが移りかわつてきていることがわかる。そして、この時にあつてもこれを卒業し、事実上、空ヶ崎の山田をかえてきたのは山田一族であることがわかるであらう。「東洋」のようが高級山田が今後定着していくかどうかわりにしても、戦後からの流れの中で千成や庄のようになつて天井式の山田は労働者の命をみぢづれに消えざる運命にあつたのかも知れない。

百口書き運ぬてい、正だけですべて山田一族の山田が九軒あつてゐる。他に残つて書いていけば、  
 ⑩ 南浜荘、⑪ クラウドホテル、⑫ ビジネスホテル、⑬ 荻松、⑭ 福寿園、以上伊太郎関係、⑮ ホテルローマ、(博愛) ⑯ パレスホテル、⑰ ホテル富山、以上博文、⑱ ホテル初日、⑲ ホテル月光、⑳ ホテルみかど、

崎の人口の増加と、それをすまへつてかまえてはなせなかつた山田一族の秀才(がゆつせ)があることばかりに書いて通りだ。他の理由はよくいへば、田中貞栄元首相の金脈問題と同じことで、不動産そのものが金を生みだしていくといふことなのである。

もう一つ貯めた金で、他人の土地が山田を買い取る。今度はそれを抵当にして銀行から金を借りて、その金で今度は新しい山田を建てる。その山田を抵当に入れず銀行から……。さういふことをくり返していけば、いつの間にか前の借金は消えて、その山田によるもう一つだけが残つて行くといふことになる。また、たく限りなく書タルマ式に山田一族は肥えたつてきたのである。例えば三軒中一軒の山田の登記簿を調べてみると、それぞれの山田を抵当に入れて銀行や信用金庫から借りた金は、合計十一億五千九百万円という巨額にのぼつてゐる。そしてそのうち約三分は抵当権が消えてゐる(借金返済済)のである。

- ② ホテル日光、以上義博関係、③ 新大阪(若)
- ④ ホテルキヨタキ、⑤ ホテル錦、⑥ ホテル大井(以上清隆関係)、⑦ ちくせ(博文)、など
- がずらりと並び、他に登記簿段々様々な手段を使つても判明しない山田があと五軒、それを加えると全部で三十一軒もの山田一族の財産にかかつてゐるといふ驚くべき数字になつてしまふ。その山田以外の不動産は調査によつて登記簿にあるものだけで、① 百餘十二軒、⑧ 井田住宅二軒、⑨ 居宅一棟のすまひも計む、十軒、⑩ 小工場一軒といふ数字がある。

大小とりあわせて建物だけを五六軒も所有してあり、それに土地をあわせて計算すると堅く評価二億三〇〇〇萬の不動産を所有してゐることになるのである。(オノロシヤオノロシヤ)

十一億五千九百万円一日當の何百年分が……  
 なせ彼らはここまで肥え太れたのだからか。その背景に、オリエンテック、石博といふ金ケ

大不況で金ヶ崎が一変するとか、金ヶ崎労働者全員が二年間位づつて背カシするとか(アホな)、いふことがない限り、今後山田一族は丸々とみにくく太つていくことが保障されてゐるのである。

またそれは火事でもこけになつて死のうたも一円の金も支払おうとしなけりし、また廻云においてもしなかつたからこそなされることのできたのである。

## 山田一族との取引銀行

- 一億円以上の取引をしてゐるといふ金額順に並べる。――
- 永和信用金庫山王支店
  - 兵庫相互銀行大阪南支店
  - 大阪相互銀行東住吉支店(阿倍野支店)
  - 福徳相互銀行花園支店(阿倍野支店)
  - 大阪信用金庫多岐支店(平野支店)

